

北海道室蘭聾学校

室蘭市水元町56-24

TEL (0143-44-1221)

FAX (0143-44-1208)

学校だより



3月

令和6年度最終号

令和7年

3月21日発行

メール muroranrou-z0@hokkaido-c.ed.jp ホームページ <http://www.muroranrou.hokkaido-c.ed.jp>

そこに「愛」はあるんや！

校長 宇野 宏之祐

本校で毎月行っている全校朝会には「校長先生からの話」というコーナーがあります。3月の全校朝会で、私の選んだテーマは「卒業式・修了式」でした。私は子供たちに、卒業生に卒業証書を渡す際に、「今までよく頑張ってきましたね」「進学先（高等聾学校）にいても、頑張ってください」「これからも努力を続けるように」など、たくさんの「思い」を抱きながら証書を授与したいということをお伝えしました。そして最後に、「□をこめる」というスライドを見せながら、「□」に何が入るのか子供たちに考えさせることにしました。一般の方はピンとこない方もいらっしゃるかもしれませんが、生来の聴覚障がい、言葉（日本語の音声言語）の概念形成に影響を及ぼすことがあります。「頑張ってください」等の具体的な事象（この場面では校長の気持ちや思い）をまとめて括った言葉（この場面では、「□」の箇所）を導き出すためには、言語に関わる抽象的な思考を必要とし、上位概念である言葉が必要となります。ともすると聾学校で学んでいる子供たちの中には、こうした問いを苦手とすることもあります。私がスライドを用いて子供たちに課した課題は、実は聴覚障がいのある子供たちにとっては、少し「難しい課題」でした。しかし、子供たちは良い意味で私の想定を裏切ってくれました。

間髪を入れず、小学部4年生の子供から「心」という言葉が出てきました。続いて同じく6年生の子供からは「気持ち」という言葉が出てきました。私は当初、「子供たちは悩むだろう」「ヒントくらいは出してあげよう」と考えていたので、ほぼ即答だった子供たちの反応に驚いてしまいました。とはいえこの答えは想定内です。私は、「□」で穴あきになっていた箇所に「心（気持ち）」と記したスライドをあらかじめ用意していました。私がそのスライドを提示しようとしたまさにその時、小学部3年生の子供が、まっすぐな眼差しで私を見つめながら「愛」と答えました。想定外の答えで、私は頭が真っ白になってしまいました。

私の脳内にある言葉の辞書には「愛」という言葉は当然ありますし、「愛」という言葉の意味も理解しているつもりでした。とはいえ、今の私の生活の中で「愛」という言葉を使う場面はほとんどありません。ですが、どうでしょう。今更ですが、私が証書に込めようとしていたのは、子供への「愛」という心や気持ちだったことに、この時気付かされました。その子が言うように、私は証書に「愛」という気持ちや心を込めようとしていたのです。年齢50を過ぎた私ですが、子供から改めて「愛」という言葉の概念を覚えてもらったような気がしました。また、「ああ、本校の子供たちは、保護者の皆さんや本校教職員の『愛』に包まれ、ここまで育ってきたんだ」「そうしてこれまで育ってきた子供たちの方が（私よりも）『愛』とはどういうものなのかを理解しているんだ」と感じました。「本校に『愛』はあるんや！」愛に包まれた学校、なんと素晴らしい学校でしょう。本校がこれからもずっとそうあり続けることができますように。

4月の 主な予定

4月 8日（火）着任式・始業式・入学式

4月 9日（水）岩崎電子来校

4月10日（木）役員会、歯科検診

4月11日（金）開級式（乳）、新しい友達を迎える会（小）、入学・進級を祝う会（中）

4月14日（月）尿検査（1次）

4月15日（火）役員会

4月16日（水）さくら補聴器来校

4月17日（木）役員会

4月18日（金）歓迎会（幼）

4月22日（火）役員会、眼科検診

4月23日（水）避難訓練、心電図（小1、中1）

4月25日（金）参観日、三者懇談

幼稚部



小学部



卒業生を送る会

3月7日



中学部



送別会

3月14日



※個人情報のため、
掲載いたしません

転出する
職員

※個人情報のため、
掲載いたしません

修了・卒業
おめでとう
いっしょに